

二〇一五年度 日本語・日本文学科 卒業研究題目

- 上橋菜穂子「守り人シリーズ」論
戦後日本のポピュラー文化
『黄帝内経』における養生
室生犀星論
『日本霊異記』における死生観
— 霊魂の記述を中心に —
司馬遼太郎と新撰組
横溝正史論
式子内親王の恋歌
近現代文学における『心中』論
「スカイ・クロラ」論
ゆとり教育の功罪と国語教育
村上春樹論
『源氏物語』における六条御息所について
物語に現れる水辺について—『古事記』を中心に—
桐野夏生論
夢野久作『少女地獄』論
湊かなえ論
女性論
- 天野菜都美
高橋 萌
西村 愛沙
青柳真里子
足立 優美
井下恵理子
市野千菜美
井戸あゆみ
岩崎 春菜
上田なつみ
浦崎 菜摘
大関 夏海
岡崎ほのか
小倉 幸恵
小澤佑紀乃
垣内 祐希
笠原 志穂
加藤 成美
- 范曄の「無鬼論」について
「莊子内篇」における思想について
酒吞童子について
泉鏡花『化鳥』論
地名の変異に関する社会言語学的考察
— 「麻生」をめぐる —
有島武郎論
〈お姫様ことば〉の研究
— 坪内逍遙訳シェークスピアを資料として —
『源氏物語』論く紫の上を中心に読む
吉田修一『悪人』論
『紫式部日記』の構成について
安部公房「壁」論
女性の役割からみる「妹の力」
ミステリにおけるトリックについて
『とほすがたり』論
尾崎紅葉「不言不語」論
社会主義と理想
戦争と労働論
- 加藤 嘉子
喜多 美月
北本 彩夏
桑村 実怜
近藤香奈絵
近藤 美花
坂田 奈々
坂根 朋子
坂原 莉帆
佐川 佳奈
佐藤早希子
佐藤 春奈
七戸 玲奈
清水 園子
下町 祥世
白川 茉央
進藤 咲夏

志賀直哉短編論

萩原規子（勾玉三部作）について

泉鏡花『夜叉ヶ池』論

石川雅望の狂歌について

梶井基次郎論

女と近代化とこれから

S F文学が描く未来の変化

山東京伝論

中上健次（秋幸三部作）を中心に

大島弓子論

「隠れ里伝承」における話型研究

吉本ばなな『白河夜船』論

『日本霊異記』における動物の役割

『紫式部日記』消息体文章についての考察

日本文学における「憑坐」について

谷崎潤一郎作品論

中世から現代における閻魔像

——閻魔の存在意義について——

司馬遼太郎「燃えよ剣」論

『英草紙』『黒川源太山に入ッて道を得たる話』論

『竹取物語』における帝の役割

日本仏教における女性差別思想

菅原亜由未

杉本 弥生

高島 明希

田坂 美穂

立川 莉麻

谷 麗央

民谷 智子

千葉 結菜

千葉 侑美

土田 麻奈

東松 佳菜

富田奈津子

中川 果歩

長田知恵李

西村 幸菜

長谷川佳澄

島山 瑞穂

早坂 茉紀

針谷ひとみ

平井いづみ

平田 誌織

「桃花源記」について

「橋」にまつわる信仰と伝承

体育会系敬語の実態と分析

——北海道大学剣道部の場合——

『遠野物語』から見る神隠し観

村上春樹「アフターダーク」論

『日本霊異記』における死後の描写

——罪と罰を中心に——

平清盛をめぐる伝承について

開高健「闇三部作」論

小林一茶論

中世文学における天狗像

——『比良山古人霊託』を中心に——

恋歌における「夢」

夏目漱石の漢詩について

『傾城恋飛脚』『新口村』論

メディアミックスにおける原作からの乖離の傾向から

見る今後の展開

三島由紀夫「禁色」論

『枕草子』論〜中宮定子をめぐる〜

「女」であり「子」であるかぐや姫

藤田 理子

堀内 沙織

松田 水月

松本 萌

三谷 有美

三橋瑠璃子

武藤 幸恵

宗形 萌

室谷 美里

森岡 奈央

山本 麻実

山本優美子

横窪 綾奈

吉川 伸子

吉田 美月

米谷 夏菜

和倉あかり

【クラスタ―卒業研究】

〈文化総合学科からの提出〉

人生を幸福に生きる術―アランの幸福論―

プラトンの「詩人追放論」について

〈文化総合学科への提出〉

伊達氏と蘆名氏について

實川 鈴香

青柳 江莉

清野 文伽

『藤女子大学国文学雑誌』投稿規程

8 「藤女子大学国文学雑誌」に掲載された論文などの著作権は著者に帰属するものとします。

- 1 「藤女子大学国文学雑誌」は藤女子大学日本語・日本文学会（日本語・日本文学科）の機関誌であり、会員からの日本文学・日本語学・漢文学・国語教育関係についての論考を募集します。
なお、本学を退職した旧会員からの投稿は認めることがあります。
- 2 投稿論文の枚数は、四〇〇字詰原稿用紙三〇枚から四〇枚を基準とします。
- 3 投稿論文は完全原稿とし、注の形式は既刊のものに準じてください。
- 4 投稿論文には連絡先を明記のうえ、本会事務局にお送りください。原稿は可能な限り電子ファイルとし、打ち出した原稿一部を添えて投稿してください。また、その際、四〇〇字に換算した枚数も書き添えてください。
- 5 投稿の採否は、編集委員会にご二任ください。なお、原稿はお返ししません。
- 6 投稿は随時受け付けます。但し、雑誌発行は年二回の予定です。
- 7 論文掲載の場合は、本誌五部と抜き刷り三〇部をお渡しします。